

再スタート元年

(株)富士ピー・エス 代表取締役社長

Sugano Noritaka
菅野 昇 孝

新年明けましておめでとうございます。皆様にとりまして、輝かしい一年となりますことを心からお祈り申し上げます。

昨年は、田中将大投手が開幕24連勝を達成し東北楽天イーグルスを球団初優勝に牽引、大河ドラマ「八重の桜」では旧会津藩の人々が戊辰戦争後に様々な舞台で活躍する姿が描かれました。未曾有の大災害を被り今まさに復旧復興の途にいる東北の方々にとって、僅かながらでも一服の涼となったのであれば幸いです。

さて、平成4年度をピークに半減した建設投資額は昨年度ようやく前年度実績を上回り、今年度も増加基調で推移しています。昨年12月には「国土強靱化政策大綱素案」が提示され、今年中にはその基本計画の決定ならびに具体施策の遂行が開始されようとしています。また、その1ヵ月前には「インフラ長寿命化基本計画」の内容が地方自治体に周知され、これに基づく行動計画の策定が要請されました。

PC業界においては、昭和27年に我が国初のPC橋が建設され、それより数年の間に全国各地でPC建設会社が創業しており、弊社も今年満60歳の還暦を迎えます。荒廃した国土の戦後復興期、高度経済成長期を背景に、官民一体となって高強度材料、急速施工、合理化施工、複合技術といった様々な技術革新を行いながら成長を続け、建設投資額と比例するように平成1けた代に絶頂期を迎えました。その後、リーマンショック、小泉・竹中構造改革や民主党政権の公共投資縮小策により事業環境は著しく厳しくなり、業界再編、淘汰も余儀なくされたのが現実です。そして、東日本大震災復旧復興事業や自民党復権によるアベノミクス効果などによって、ようやく一昨年度よりPC建設協会の受注実績は増加基調を示すようになってきました。昨年には、PC橋談合事件に関する公正取引委員会審決に伴う課徴金、損害賠償金の始末も終了し、本年がPC業界再スタートの年ではないかと思っています。

その年頭にあたり、PC業界に身を置く者にとって果たして何が大切かを考えてみたいと思います。

昨年11月、長崎にて開催された「道守九州会議」に参加しました。道守は、「個」のためでなく「公」へのボランティアを基本に、常に個人は行政とのパートナーシップを保ちながら「協働」の活動を推進する。そして、暮らしの広場・空間である「道」に草花を育て、清掃し、清潔で美しい町と心を育て、「道」に不具合や異常がないかを監視し、安全で安心な町を育てることを目的とする、とされ

ています。会員数は個人56,600、団体247に上ります。同会議では、各県代表団体の1年間の活動についてパネルディスカッション形式による質疑が、終盤では地元小学校の先生と児童による活動発表が劇場形式でなされました。ボランティア活動にもかかわらず、あるいはボランティアであるがゆえか、発言者、発表者の表情、言動は大きな自信と満足感で満ち溢れていました。また、長崎大学では長崎県と連携して、「道」の維持管理およびそれに関する技術の習得を目的とした教育プログラムを実施して「道守」を養成しています。さらに、橋に限定した「橋守」の育成プロジェクト活動も長岡技術科学大学など数団体が行っています。旧国鉄には、昭和40年頃まで「橋守」という制度があり、親子何代にも亘って橋の近くに住み、橋を家族ぐるみで自分の家のものとして守っていた人達がいたとい

います。「道」や「橋」は当然のことながら公共であり、それを享受する地域住民と行政が一体となって守り、育む必要があるということです。PC業界の生業は正に「道」や「橋」を代表とする公共構造物の構築であり、この構築によって社会に貢献してその対価を得る。この精神を今一度心に刻み、社会に飲ばれ、より良い品質のモノづくりを目指していくことが、真に必要とされる企業、業界になることへの唯一の道と考えます。

「3K」、「談合」、「コンクリートから人へ」などと一手に悪役を引き受けさせられた思いをしていたのは私だけではないと思います。度重なって生じた自然災害やトンネル天井板崩落事故などが起因して、社会基盤整備と建設業者が担う役割の重要性が少しずつですが見直されてきました。また、国土交通省が打ち出した「公共工事設計労務単価の引き上げ」、「下請け企業の社会保険等への加入促進」の施策は、少なからず建設就業人員の増加に寄与することとなります。PCは強靱な耐力と復元力特性を持ち、環境負荷低減や振動、騒音特性にも優れ、かつ高強度で軽量化を実現し省資源の観点からも優位性が高いものです。このような優れた性能を生かして防災や環境保全に役立て社会貢献することが責務であります。

岐阜大学名誉教授小柳治先生の言をお借りすると、「Concrete or Human」などもっての外、「Concrete for Human」こそふさわしい、とのこと。本年が再スタートの絶好の年であり、着実に実行していくことを誓い、祈念して新年の挨拶とさせていただきます。